

ヤスハラケミカル 環境・社会報告書

2019

自然と暮らしを科学でつなぐ。



ヤスハラケミカル株式会社

CONTENTS

- 1 CONTENTS / 会社概要 / 編集方針
- 2 ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～
- 3 会社紹介
- 5 TOP MESSAGE
- 7 経営分野
 - 中長期的経営方針 / 財務ハイライト / 部門別状況
- 9 **特集 1**
働き方改革への取り組み
- 11 **特集 2**
工場間相互交流への取り組み
- 13 環境・安全分野
 - 環境・安全に関する基本方針 / 推進体制
 - 【目標達成状況】**
2018年度の具体的目標と実績 / 環境方針
 - 【事業活動における環境配慮への取り組み】**
エネルギー使用量 / CO₂排出量 /
大気汚染物質の排出量 / 水質汚濁物質の排出量 /
産業廃棄物処理委託量 / PRTR対象物質の排出・移動量
 - 【安全衛生への取り組み】**
労働災害発生件数の推移 / 休業災害度数率の推移 /
安全衛生表彰 / 安全衛生・環境に関する資格の保有者数
- 17 社会分野
 - 【お客様への取り組み】**
品質管理
 - 【株主・投資家の皆様への取り組み】**
株主総会 / IR活動 / 株主還元
 - 【従業員への取り組み】**
仕事と家庭の両立支援 / 健康管理
 - 【地域社会への取り組み】**
防災訓練への参加 / 地域の教育支援活動 /
スポーツ支援 / 職場体験学習

会社概要

- 商号 / ヤスハラケミカル株式会社
YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.
- 本社 / 〒726-8632
広島県府中市高木町1080番地
- 創業 / 1947年(昭和22年)4月
- 設立 / 1959年(昭和34年)2月24日
- 決算月 / 3月
- 資本金 / 17億8,956万円
- 主な製品 / ■テルペン樹脂事業
(テルペン系樹脂)
■化成品事業
(合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス)
■ホットメルト接着剤事業
(ホットメルト接着剤)
■ラミネートフィルム事業
(光沢ラミネートフィルム)
- 従業員数 / 246名(2019年3月31日現在)
- 証券コード / 4957

「環境・社会報告書2019」の発行について

ヤスハラケミカルは、企業活動全般を通じて、持続可能で豊かな暮らしの実現を目指しています。当社の理念に基づく取り組みをご報告し、より多くの方々にヤスハラケミカルの事業活動を知っていただくことを目的に2008年より、環境報告書を発行してきました。2016年からはタイトルを「環境・社会報告書」と改め、地域社会での活動などの社会性報告に加え、経営ビジョンや財務情報についてもご報告しています。

当社は、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行っています。また、お客様、お取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、地域社会を大切なパートナーと考え、様々な社会活動を続けています。

今後も、パートナーの皆様からのご意見を伺いながら、さらに情報の拡充を図り、よりわかりやすい報告書へと進化させてまいります。

編集方針

- 報告対象範囲
ヤスハラケミカル株式会社管理部門及び生産拠点
- 報告対象期間
2018年4月～2019年3月(一部期間外のトピックスを含みます)
- 次回発行予定 ※2020年6月発行予定です。
- 発行担当部署
ヤスハラケミカル株式会社 社長室
TEL (0847) 45-3531 (ダイヤルイン)
FAX (0847) 45-8639

本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願いいたします。

ヤスハラケミカル～私たちの考え方～

基本理念

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、
産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

テルペン化学で培った創造と挑戦の精神をもって、自然界の無限の可能性を引き出し、
産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、社会の発展、便利な暮らし、心豊
かな暮らしに貢献します。

ヤスハラケミカルの紹介

ヤスハラケミカルは環境にやさしい天然由来の「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、粘・接着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料、塗料の添加剤などの工業原料を製造しています。

ヤスハラケミカルの目指すところ

私たちは、従来利用されていなかったものに原料としての有効性を見出し、「社会に還元する」精神のもと高付加価値な製品を提供してきました。今後も、事業活動を通じて、社会の発展、持続可能な暮らしの実現を目指してまいります。

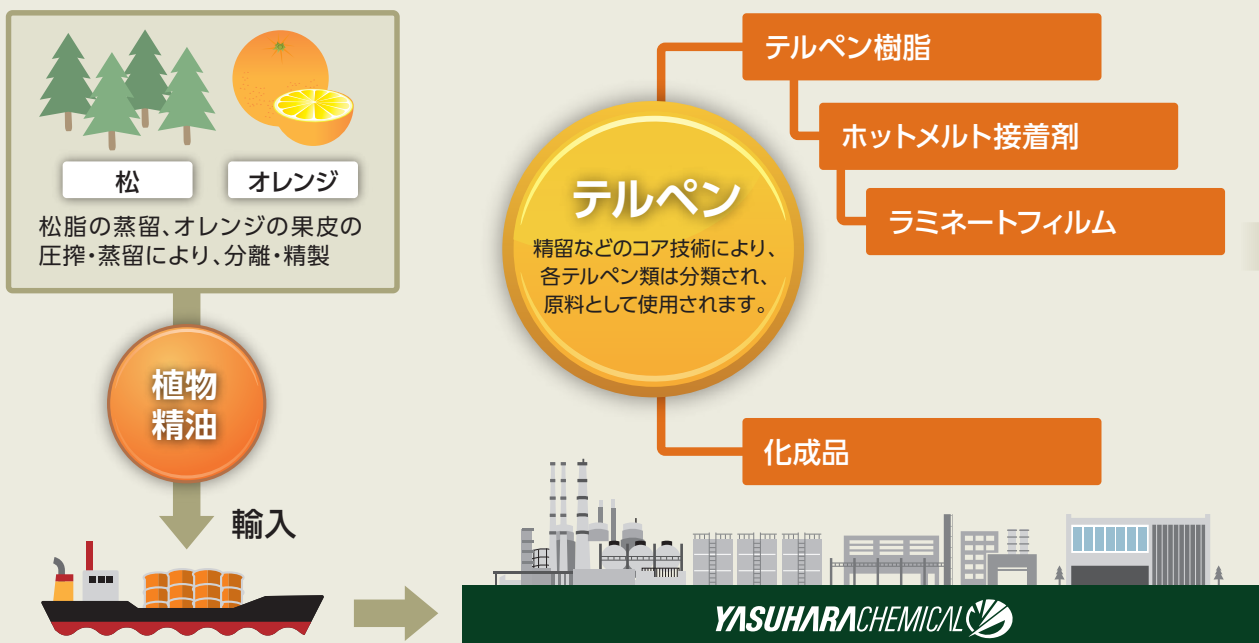


ヤスハラケミカル テルペンから生まれる製品

松脂や松のチップなどから得られるテレピン油と、オレンジジュース製造の副産物であるオレンジオイルを原料として、各種テルペン成分を分離精製しています。それらを付加価値の高い製品へと加工し、国内はもとより広く世界へ送り出しています。高い技術力から生まれる製品は、海外でも高い評価を得ています。

「テルペン」 とは？

植物の体内で作られる物質で、松の木から採取される「テレピン油」やオレンジなどの柑橘類の皮から採取される「オレンジオイル」に多く含まれています。テルペンは、将来の枯渇が心配される石油資源とは異なり、植物が太陽の恵みをもとに繰り返し作り出すことができる再生可能な貴重な資源です。



自社で生産したテルペン樹脂からホットメルト接着剤事業を、ホットメルト接着剤事業からラミネートフィルム事業を展開しています。原料であるテルペン樹脂の特徴を活かした製品開発が当社の強みであり、環境にやさしく、高品質な製品をご提供いたします。

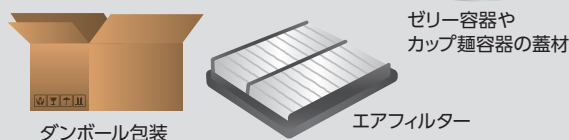
テルペン樹脂

天然素材であるテルペンを主原料としており、粘・接着剤用の粘着付与剤、ゴム・プラスチック等の改質剤として、幅広い用途に利用されています。



ホットメルト接着剤

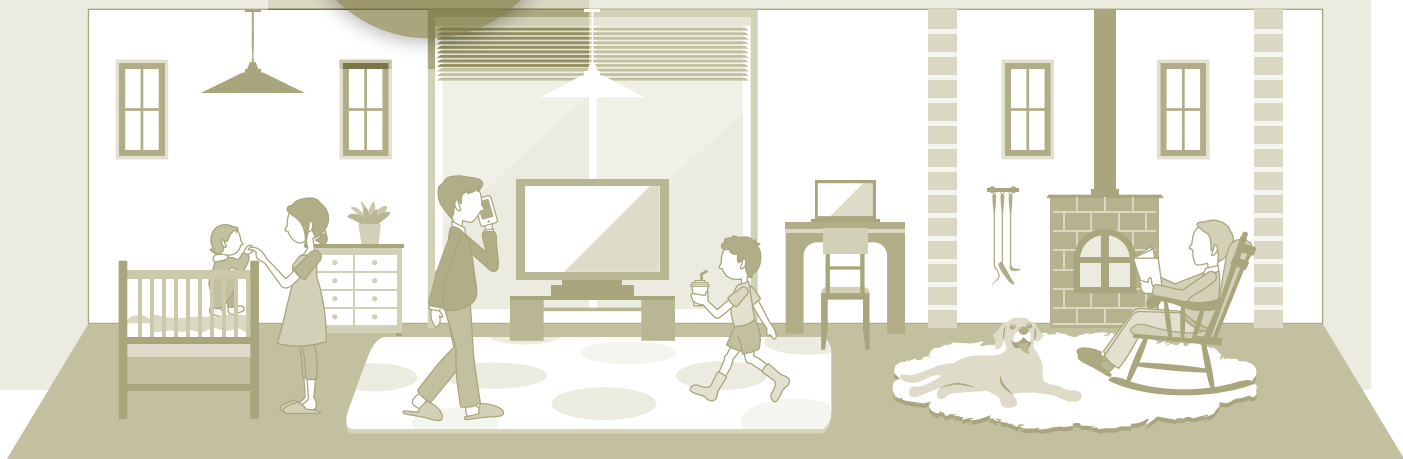
テルペン樹脂を利用し、ダンボール包装用接着剤、日用雑貨用接着剤、フィルターなどのアッセンブリー用接着剤、ゼリー容器などの蓋材向け押出し加工用樹脂を製品化しています。





国内・海外の
お客様へ

当社の作り出す製品は、
世界各地の人々の暮らしに
役立っています。

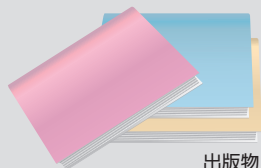


ラミネートフィルム

製本の光沢やショッピングバッグなどの艶出し用フィルムとして使用されます。OPPやPETフィルムにホットメルト接着剤などの接着樹脂を押し出し塗工しており、熱圧着することで貼り合わせることができます。



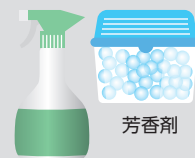
ショッピングバッグ



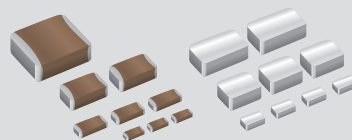
出版物

化成品

オレンジオイル、テレピン油を精製・異性化して得られるテルペン誘導体を香料原料、溶剤、洗浄剤等に展開しています。



芳香剤



積層セラミックコンデンサ (MLCC)



洗浄剤

平成から新しい時代に
かわろうとしている今こそ、
ポジティブなマインドを持って
前進していきます。

外部環境に左右されるのではなく、
中から新しい活力を創ろうという
マインドが大切です。

昨年の後半以降、テレビや新聞では、中国の景気減速がさかんにとり上げられていますが、経営する上では外部環境に左右されるのではなく、ポジティブな戦略的思考をもとに、内部から新しい活力や価値を創っていく努力や工夫が必要と考えています。中国のGDPは日本の3倍もあるほど巨大ですから、経済成長率がたとえ6%台になったとしても、さほど心配する必要はないと思います。むしろ中国に関して心配なのは、半導体まわりの状況変化です。中国への半導体需要がかつてないほど落ち込んでおり、それが日本経済に今後どのように影響してくるかという点を、慎重に見ていく必要があります。

一方日本経済も、景気のサイクルからいって、下向きサイクルに入っているのは間違いありません。しかしこうした状況下でも、ポジティブなマインドを持って課題に向きあえば、新たな需要を創り出すことは可能です。その意味でこれからの時代は、俯瞰して考える能力や自ら課題をみつけ解決する力がますます重要になるといえるでしょう。

ヤスハラケミカル株式会社
代表取締役社長

安原 稔 二

Teiji Yasuhara

会社での働き方と 余暇時間の使い方を見直すことで、 新たな活力を創造していきます。

ヤスハラケミカルでは、社員一人ひとりの「人のチカラ」を育てるためのさまざまな人材育成や研修を取り入れています。昨年度からは、新たに「働き方改革」と「工場間相互交流」をテーマにした2つの取り組みをはじめました。

当社の目指す「働き方改革^(※1)」は、「働き方を見直すことで時間あたりの生産性を向上させる」ことが目的です。その結果、各社員が仕事を早く終わらせ帰宅することができれば、自分のための「余暇時間」が生まれます。

余暇時間には、地域の活動や祭り、ボランティア活動などにも積極的に参加して欲しいと話しています。インターネットなどで簡単に情報が得られる今の時代には、本質を読み解く読解力や、人と対話したり協調する能力が求められるし、重要だと思うからです。社員一人ひとりが余暇時間を充実させて、人と話したり、人と協力して何かをやる機会を増やすことで、仕事の面での解決能力も増し、会社の活力もさらに高まっていくと思います。

(※1) 詳細はP.9 特集①「働き方改革への取り組み」をご参照ください。

各工場の課題や工夫を共有化することで、 会社全体の現場力を高めていきます。

ヤスハラケミカルには、福山・新居浜・鶴飼・総領の4工場があります。現在、生産本部主導により全社的な業務の標準化・効率化を進めており、各工場間の情報共有や連携も重要との思いから、まずは工場長・課長の相互交流を行い、昨年度からは班長の交流研修^(※2)をはじめました。

班長はプレイングマネージャーとして、自ら作業を行いつつチームをまとめ生産効率を高めていく重要な立場ですから、班長ならではの苦勞や悩みも抱えています。

そうした課題を解決するには、他の工場のやり方を直接

みることでヒントを得たり、自分の仕事を客観的に見つめ直す機会になり、気づくことも多いと期待しています。また同じ立場で同じような悩みを持つ班長同士が互いの課題を共有し合うことも、課題解決のためには重要なことと考えています。

(※2) 詳細はP.11 特集②「工場間相互交流への取り組み」をご参照ください。

一人ひとりが 問題意識を持って行動することで、 やがて大きなプラスの回転を 生みだせると思います。

昨年、日本各地をこれまでにないほどの豪雨や台風などの異常気象が襲い、たいへんな被害をもたらしました。地球温暖化への対応は一刻の猶予もなく、その原因であるCO2抑制を求める声がヨーロッパを中心に年々高まってきます。こうした課題を解決するには、この問題を他人事ではなく、一人ひとりが自分の問題として考えるようになることが大切です。

また日本の人口減少問題も深刻な課題です。しかし見方を変えれば、女性の社会進出を促す機会にもなり、男性の育児参加という新しい文化や社会性を生み出すきっかけになるかもしれません。これも一人ひとりが、自ら考えて行動しはじめなければ変わっていきません。

一人ひとりの変化は小さいかもしれませんが、それがまともまっていけば、やがて大きな変化になっていきます。私は平成から新しい時代が変わっていく今こそ、一人ひとりが変わり大きな変化にしていくいい機会であり、プラスの回転を生み出すチャンスでもあると信じています。



中長期的経営方針

当社は、設備と人の両面から、体質改善による基盤強化を推進しています。中長期的経営方針としては、収益性改善、新規開拓、グローバル展開を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

「人のチカラ」

中長期的経営方針で掲げた目標を達成するためには、「人のチカラ」が最も重要であることを強く認識しています。そのため、社員の意識改革に繋がる教育投資、自律型人材育成を積極的に推進してまいります。ヤスハラケミカルは、従業員一人ひとりが筋肉質になることを目指しています。筋肉質であるためには、例えば、情報をただ集めるだけではなく、読書などにより知識を増やし、情報を編集する力を身につける必要があります。知識が増えると、視野が広がり、創造性が育まれ、競争に負けない力を発揮できるようになると考えています。長期的視点に立って、「人のチカラ」を伸ばしていきます。

収益性改善

高収益製品の売上増加、工場の合理化推進を図ることにより、利益を創出する収益構造を確立します。



収益性
改善

人のチカラ



グローバル
展開

新規開拓



グローバル展開

新興国市場など成長を取り込める事業を展開している顧客を重点的かつ積極的に探索することで、海外市場の新規開拓と拡大を目指します。

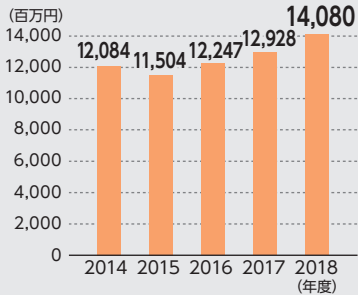
新規開拓

研究開発と事業化の加速を図りながら、付加価値の見込める分野、用途を積極的に開拓します。

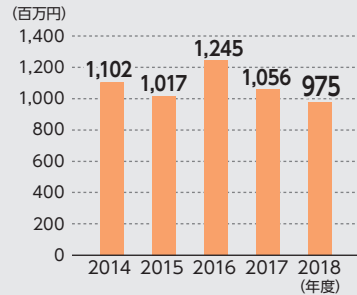


財務ハイライト

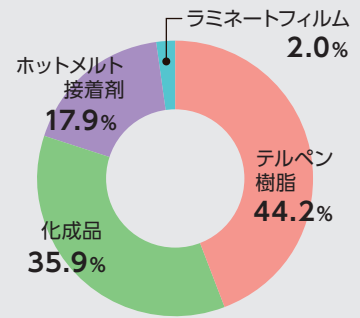
●売上高の推移



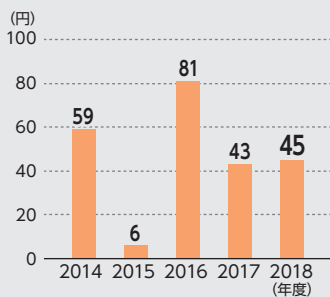
●経常利益の推移



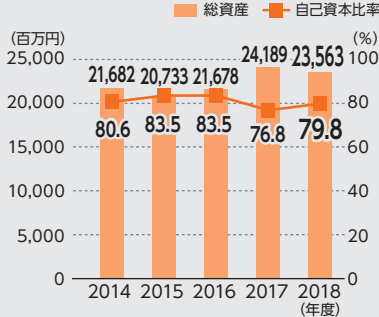
●部門別売上比率 (2018年度)



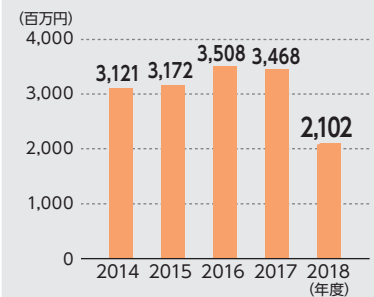
●1株当たり純利益



●総資産/自己資本比率



●現金及び現金同等物の期末残高

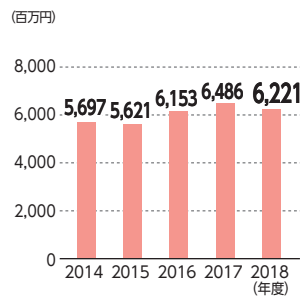


【部門別状況】

テルペン樹脂

近年は、環境対応製品や自動車関連部品、光学、医療などの高付加価値分野のほか、高い再生可能資源利用率や耐候・耐熱性といった特徴が活かされる分野の開拓に注力しています。

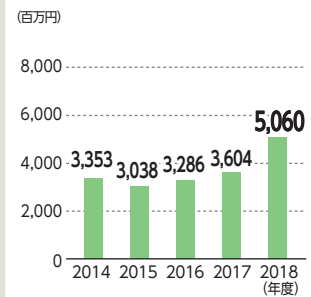
●売上高の推移



化成品

本事業の収益性向上のため、電子部品向け溶剤や特殊化学品の拡販と、環境対応分野や生理活性分野などテルペン類の機能が活かせる用途開拓に努めるとともに、生産設備の合理化を推進しています。

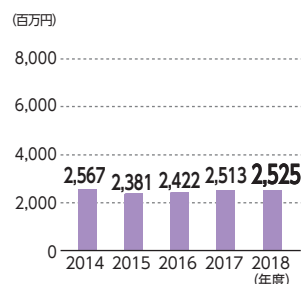
●売上高の推移



ホットメルト接着剤

熱安定性の良い包装用接着剤の展開と、透明性が高く、加工性の優れた食品包材用押し出し樹脂の実用化を進めています。また、海外法規制対応品の開発・製品化を進めています。

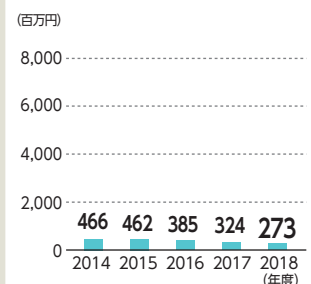
●売上高の推移



ラミネートフィルム

本事業の収益性向上のため、不織布に筋状コーティングした通気性のあるラミネート材の用途探索を行っています。また、機能性を付与した製品の開発を行っています。

●売上高の推移



個人の成長を会社の成長につなげることを目指して、 ヤスハラケミカル流「働き方改革」を進めています。

ヤスハラケミカルでは、社員がいきいきと働くことのできる職場環境を構築するために、「働き方改革」への取り組みを進めています。今回はその目的と概要についてご紹介します。



常務取締役
沖津 弘之

「働き方改革」へ取り組むことになった背景

日本は今、欧米に比べても速いスピードで、高齢化と人口減少が進んでいます。このまま何もしていないでいると、いつかは必要な労働力が不足するのではないかという危機感があります。

また、社員の能力をより発揮しやすくし、将来にわたり優秀な人材を確保するには、もっといきいきと働けるよう職場環境の向上をはかることは不可欠です。そんな職場環境を構築するために、社員の「働きやすさ」や「働きがい」をどう高めていくかが、会社としての課題の一つとなっていました。

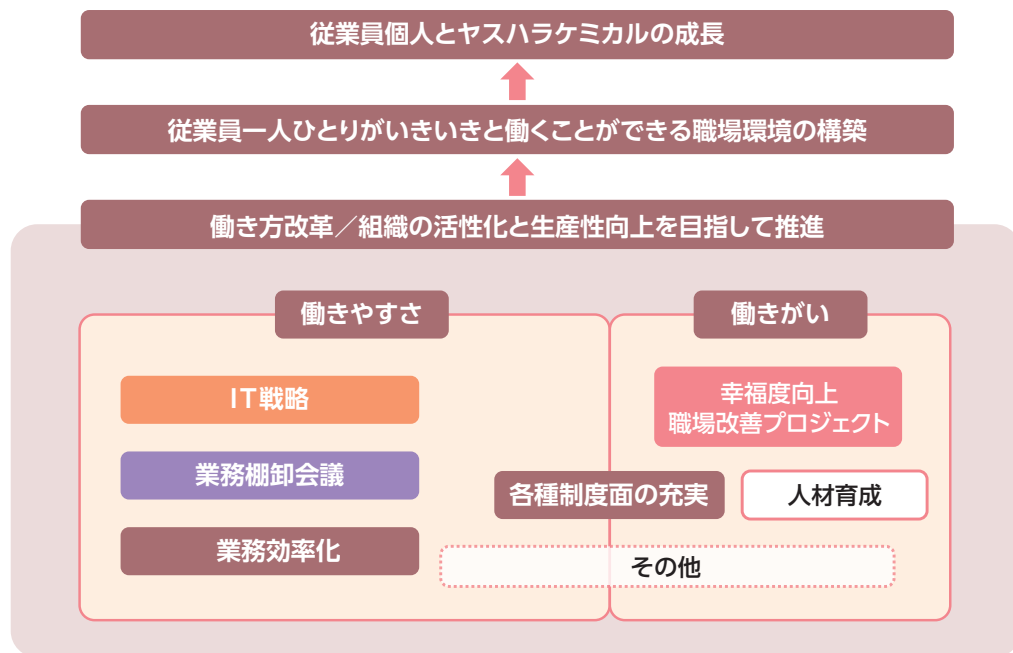
こうした背景から「働き方改革」に本格的に取り組むことにしました。

取り組みの経緯

働きやすい職場を目指す動きは以前からあり、昨年1月から管理部門で「ノー残業デー」をはじめました。これは毎週金曜日を「ノー残業デー」とし定時退社を促す制度で、これにより全体の残業時間は減ったのですが、調査を行うと「残業をしない」ことが目的になっていて、真意である「早く仕事を済ませるにはどう働けばよいかを考える」きっかけになっていないことがわかりました。

会社としては仕事を早く終わらせることで生まれる時間で、社員自身が「余暇時間をどう活かすか」や「自分や家族の幸福のためにどう生きるか」といったことを考えるきっかけにして欲しいと思っています。

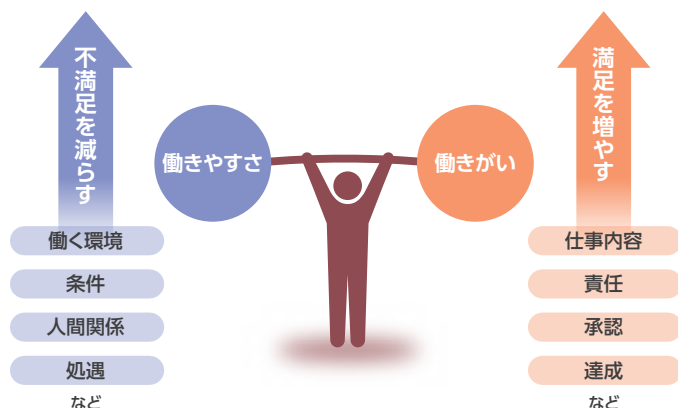
こうした考え方をさらに積極的に浸透させるために、昨年12月より、ヤスハラケミカル流の「働き方改革」として新たな取り組みをスタートさせました。



ヤスハラケミカル流「働き方改革」とは

私たちの目指す「働き方改革」は、仕事の効率を上げることできいきと働くことができ、プライベートでも充実した生活が送れる会社にする事です。その実現には、職場環境や労働条件などの“働きやすさ”と、仕事へのモチベーションや達成感などの“働きがい”の、両面からの向上を目指す必要があります。

こうした改革には管理職の理解や意識改革が不可欠なため、改革の狙いや進め方を伝える説明会を管理部門で開催しました。その中で、働きやすく働きがいのある会社にするための手段として「業務棚卸会議」や「幸福度向上職場改善プロジェクト」などの取り組みを行っていくことを説明しました。



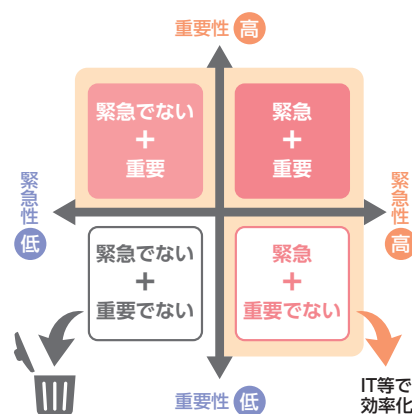
社長室 室長
宮田 英次



ムダな仕事を減らす「業務棚卸会議」

管理部門での日々の業務の中には、IT技術などを用いて時間短縮できるものや、やめても成果に影響しないものも含まれています。生産性を落とさず効率化を進めるためにはこれらの改善が重要で、業務内容の重要性和緊急性の観点から見直そうという活動が「業務棚卸会議」です。

業務の見直しは、担当者だけでは気づきにくく改善しにくいことから、業務の標準化を進めている各部署が連携しながら、IT技術の活用を検討するなどして、順次客観的に業務棚卸を進めていく予定です。



「しあわせ」を見つめる「幸福度向上職場改善プロジェクト」

「幸福度向上職場改善プロジェクト」は、幸福という視点から自分を見つめ直し、働きがいの向上につなげることを目指した取り組みです。幸福度が高い人ほど仕事におけるパフォーマンスも高いというデータもあります。

「幸福」は、人それぞれで違います。仕事をすることで幸福を感じる人もいれば、家族や趣味の時間で幸福を感じる人もいます。自分にとって何が幸福かや、何をしていると楽しいと感じるかを見つめ直すことで、プライベートを充実させ、効率よく働こうという意欲につながります。

そうした考え方を会社全体に浸透させるよう、外部から専門講師を招き、自分にとっての「幸福」を見つめるためのセミナーを管理部門からはじめました。

「働き方改革」で期待する効果

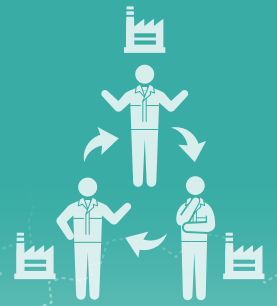
当社の「働き方改革」は、働き方を見直すことで時間当たりの生産性を向上させることを目指しており、その結果うまれる余暇時間を、例えば自分の趣味やスポーツ、ボランティアなどの時間として有効に使うといったことも考えて欲しいと伝えています。

効率よく仕事をするには、オンとオフの切り換えが重要です。ずっと仕事ばかりやっていると見えないものも、リフレッシュすることで気づくこともあります。仕事を離れて思考プロセスを切り換えることは、仕事への意欲を高めるだけでなく、課題を俯瞰して客観的に考える機会にもなると思います。

ヤスハラケミカルの「働き方改革」は人件費削減が目的ではなく、生産性向上によってうまれた時間を、社員の幸福や成長のために有効に使うための取り組みです。社員の幸福や成長が会社の成長につながると信じ、本質的な「働き方改革」に取り組んでいきます。

各工場の安全・品質水準の向上を目指して、「班長交流研修」を導入しました。

ヤスハラケミカルの生産部門では、各工場での安全管理・品質管理への意識向上を目指して工場間の相互交流を行っています。
その一環として昨年より各工場の班長を対象とした相互交流をはじめました。
今回は「班長交流研修」の取り組みについてご紹介します。



鶴飼工場 工場長
藤田 耕三



「班長交流研修」導入の背景と概要

ヤスハラケミカルには福山・新居浜・鶴飼・総領の4工場がありますが、工場ごとの生産品の相違から製造プロセスも大きく異なるため、安全や品質に関する基準には違いがあります。
生産工程の効率化や合理化を進める上で、安全管理や品質管理の水準を全社的に合わせておくことはとても重要です。そこで工場長・課長の相互交流をはじめましたが、スピード感を持って現場へ落とし込むには、トップダウンで指示するより、現場で作業をしているスタッフ同士の相互交流を行うほうが効果的であ

ろうという判断から、昨年より「班長交流研修」をはじめることになりました。
交流研修は、毎回3～4名選出された班長が、各工場の一日の作業を2日間かけて見学しレポートにまとめます。そして参加する班長を交替しながら交流研修を繰り返すことで、1年間かけてすべての班長が、各工場の仕事の進め方を目で見て感じることができるよう計画しました。

導入の効果と今後

実務の責任者である班長が、実際に目で見て肌で感じる経験は、言葉で伝えるよりはるかに雄弁です。しかも各班長がまとめたレポートは互いに共有化するだけでなく、自工場でも今後どう改善していくかを各工場の班長会議でテーマにして、課題解決の検討を行うようにしています。
まだ1年目ですが、このような動きの中で、各班長も刺激を

受けたく、積極的な改善提案もではじめており、意識改革の手応えを感じています。
今後は1年目の総括を行った上で、さらに具体的な改善策の検討を進めるとともに、班長代理や班員の相互交流、検査課長の相互交流などへ幅を広げていき、各工場間の連携・交流を促進していきたいと考えています。

【標準的な交流研修スケジュール】

新居浜工場 1日目		新居浜工場 2日目	
10:00～10:30	工場概要説明	8:00～8:10	担当者間 引継ぎ、申し送り
10:30～11:00	工程説明	8:10～8:15	ラジオ体操
11:00～12:00	工場内見学	8:20～8:45	全体ミーティング
12:40～13:40	設備異常処置報告書、作業指示連絡書、班長業務の説明	8:50～12:00	各種点検表・安全当番・班長業務の説明・現場作業見学
13:40～15:00	各プラント見学説明、意見交換	12:40～14:00	製造工程を担当者より説明
15:10～16:10	引継ぎ前の班長と各担当者ミーティング、各担当者間で申し送り	14:00～14:30	まとめ



班長交流研修メンバーインタビュー



他工場で得た刺激や経験を活かして、
小さなことから自分たちでできる改善をはじめています。



鵜飼工場
製造課 班長 柿迫 伸二

新居浜工場を訪れる前から、安全面・品質面のレベルが高いとは聞いていましたが、チェック項目の多さやチェック体制の厳しさは想像をはるかに超えており驚きました。また鵜飼工場では班長がラインの作業もするのですが、他工場では班長は生産管理のマネジメント業務が中心であることを知りました。

これらの経験はとても新鮮で、仕事のレベルを高める上で、まだまだ変えるべき点はたくさんあることに気づきました。鵜飼工場の他班長とのコミュニケーションを深めながら、自分たちの力でできることから少しずつ変えていこうと行動を開始しています。



鵜飼工場

班長交流研修では多くのヒントを見つけ、たくさんの刺激を受けました。



福山工場
製造課 班長 新井 英樹

新居浜工場を初めて訪問させていただきましたが、その第一印象は、歴史の長い工場なのに古さを全く感じさせないことでした。整理・整頓・清掃の3Sが徹底されており、工場見学をする中では、小さなことまでとてもきめ細かく手順や確認事項が決められていて、安全・品質に関する意識の高さにも驚きました。

また、新居浜工場では班長がポンプなどの機器整備をすることがあるそうで、不具合の予防や緊急時対応に役立つので自分も勉強したいと考えるようになりました。

この交流を通じ、自工場とは異なる生産管理を肌で感じたことにより、多くのヒントを得ることができ、とても良い刺激を受けました。



福山工場

他工場の見学や意見交換はとても有意義でした。
今後は班長代理や班員にも広げていきたいと思えます。



新居浜工場
製造課 班長 京野 英昭

福山工場に伺った日の昼から工場内で一斉に清掃作業がはじまったのですが、工場長自ら掃除機片手に製造ラインを掃除されているのに驚きました。こうした熱意が工場の団結力を生むのだと思います。

また新居浜工場に他工場の班長さんを受け入れた時には、過去のヒヤリ事例を現場で説明し、その対策についても確認してもらいました。

今回の研修で他工場を見学したり、班長さんと意見交換ができたことはとても有意義でした。今後も交流研修を継続し、班長代理や班員、製造課以外の部署の方にも経験してもらえば、工場全体のスキルアップにつながるのではないかと思います。



新居浜工場



ヤスハラケミカルは、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行うことで、持続可能で豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

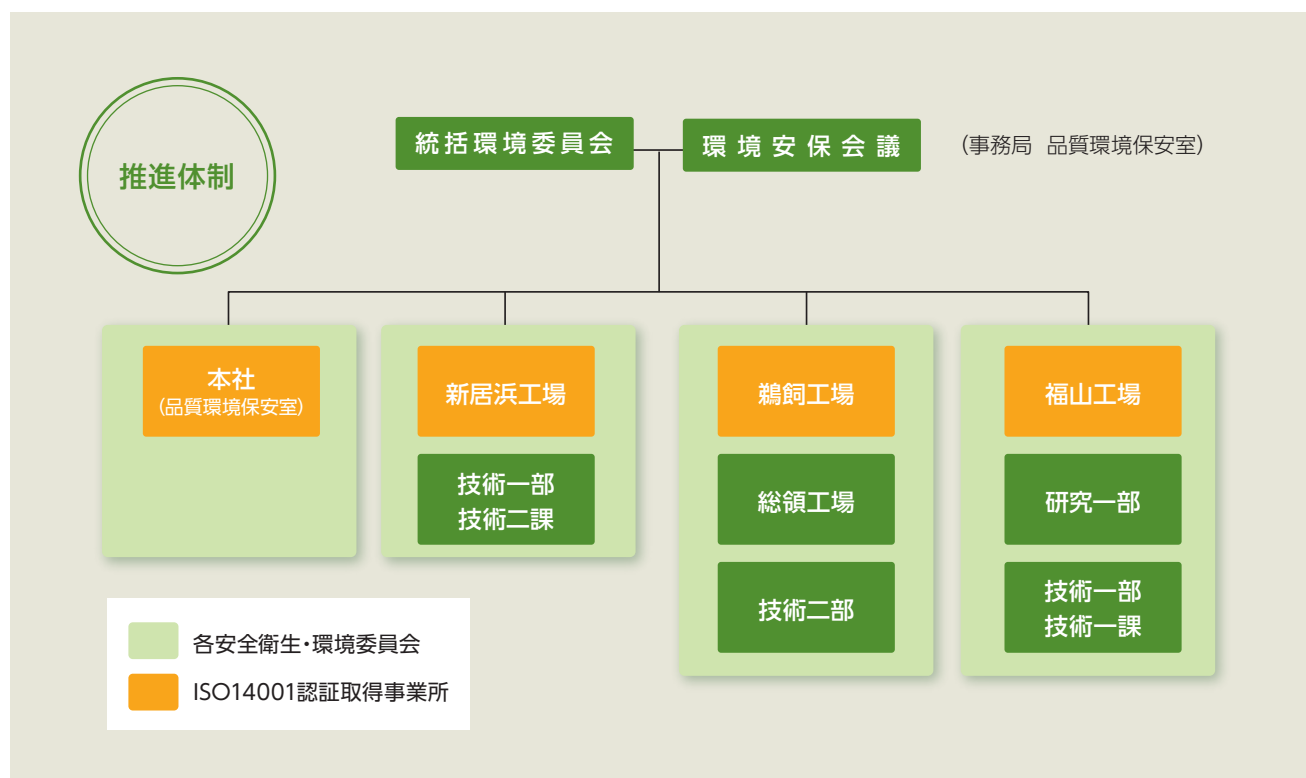
《 環境・安全に関する基本方針 》

- 1 天然物の有効活用による安全で環境負荷低減型製品の開発により、各産業分野における地球環境保護(省資源、リサイクル、健康有害物の排除など)の推進に貢献する製品を提供することで社会に貢献します。
- 2 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクル全般にわたり、環境負荷の低減を図り、環境保護に努めます。
- 3 無事故・無災害の操業を継続し、従業員と地域社会の安全を確保します。
- 4 原料、製品の安全性を確認し、従業員、物流業者、顧客など関係する人々への健康障害を防止します。

全従業員は、この方針の重要性を認識し、法令、規格及び社内ルールを順守するとともに、常に改善に努力すること。

2006年5月2日

ヤスハラケミカル株式会社 代表取締役社長 安原 禎二



目標達成状況

》》 2018年度の具体的目標と実績

ヤスハラケミカルでは、各工場での環境目標を数値設定、励行することで、事業活動全体における環境負荷の削減を推進しています。

環境活動の目標と実績				
活動テーマ	2018年度目標	2018年度実績	評価	2019年度目標
環境マネジメントシステム(EMS)の推進	EMS認証取得3工場の認証維持	EMS認証取得3工場の認証更新	○	EMS認証取得3工場の認証維持
省エネルギーの推進	エネルギー原単位前年度比1%削減	エネルギー原単位前年度比1%増加	×	エネルギー原単位前年度比1%削減
温室効果ガスの排出削減	CO ₂ 排出原単位前年度比1%削減	CO ₂ 排出原単位前年度比3%増加	×	CO ₂ 排出原単位前年度比1%削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物排出原単位削減	産業廃棄物排出原単位前年度比9%増加	×	産業廃棄物排出原単位削減
	廃棄物排出量削減	廃棄物排出量前年度比3%削減	○	廃棄物排出量削減
化学物質の適正管理	PRTR排出量削減	PRTR排出量前年度比8%削減	◎	PRTR排出量削減
	化学物質リスクアセスメントの継続実施	化学物質リスクアセスメントの実施	○	化学物質リスクアセスメントの継続実施
災害・事故	休業災害・事故ゼロ	休業1件	×	休業災害・事故ゼロ
環境・社会報告書発行	年1回発行	6月発行	○	年1回発行

◎目標を大幅に超えて達成 ○目標を達成 ×目標を達成できなかった

《 環境方針 》

わたしたちは、法令順守・環境負荷低減を最重要事項に定め、その達成に向け、事業活動で生じる全ての環境影響因子を可能な限り削減・排除すべく継続的改善を図り、社会的責任を果たします。

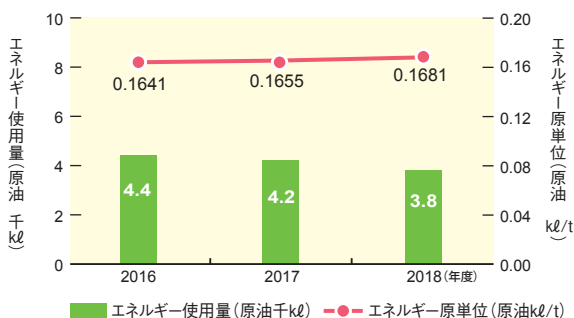
2018年9月1日

ヤスハラケミカル株式会社 取締役生産本部本部長 栗本 倫行

事業活動における環境配慮への取り組み

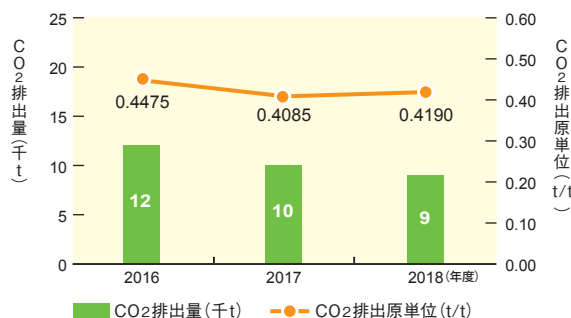
エネルギー使用量

2018年度は設備合理化や原料蒸留残渣のボイラー燃料活用等によりエネルギー使用量は減少しましたが、生産品目の変動等によりエネルギー原単位は前年度比1.6%増加しました。引き続き省エネルギーに努めます。



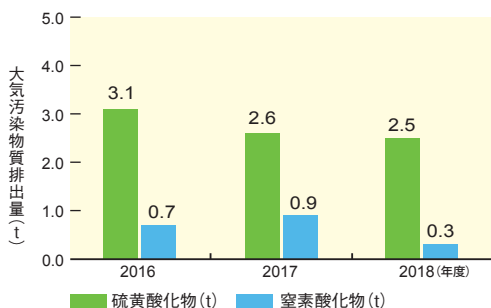
CO₂排出量

2018年度は原料蒸留残渣の活用等による燃料使用量削減を継続しましたが、生産品目の変動等によりCO₂排出原単位は前年度比2.6%増加しました。引き続きCO₂排出削減に努めます。



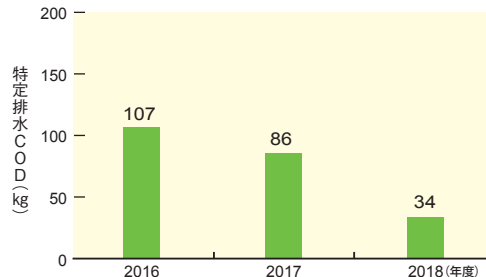
大気汚染物質の排出量

2018年度は2015年度に実施した低硫黄燃料への転換を継続し、硫黄・窒素酸化物排出量は減少傾向となっています。引き続き大気汚染物質の排出削減に努めます。



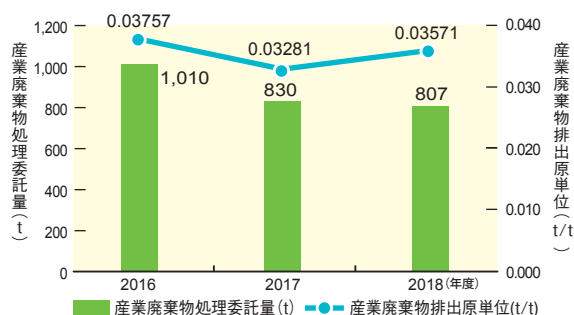
水質汚濁物質の排出量

2018年度は設備合理化をさらに進め、COD負荷量は前年度比60%減少しました。引き続き水質汚濁物質の排出削減に努めます。



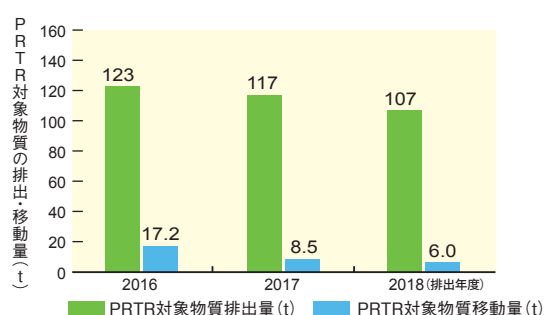
産業廃棄物処理委託量

2018年度は生産品目変動等の影響により、産業廃棄物排出原単位は前年度比3%増加しました。引き続き産業廃棄物削減、有価物への転換等に努めます。



PRTR対象物質の排出・移動量

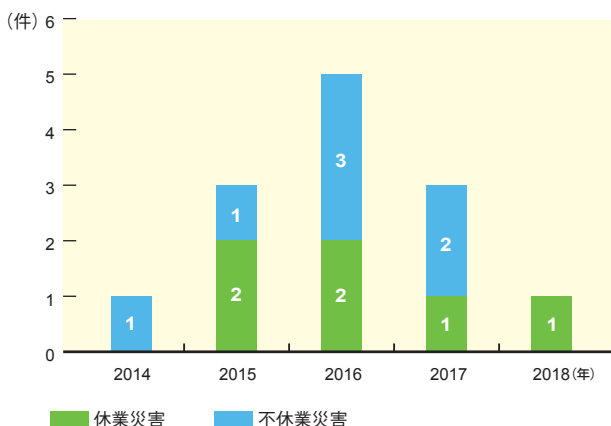
2018年度は生産品目変動等の影響により、PRTR対象物質排出量は前年度比8%減少しました。引き続きPRTR対象物質の排出・移動量の削減に努めます。



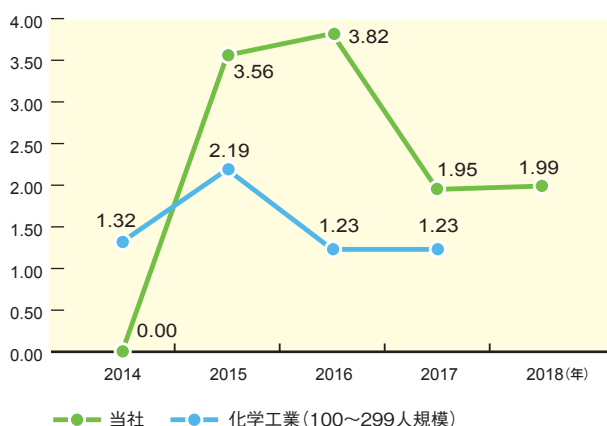
安全衛生への取り組み

ヤスハラケミカルは、安全を最優先に事業活動を行い、安全、健康そして快適な職場づくりに取り組んでいます。

▶▶▶ 労働災害発生件数の推移



▶▶▶ 休業災害度数率の推移



※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生頻度を表す。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

※出典：厚生労働省「平成29年労働災害動向調査(統計表)一般産業第2表」(平成30年10月19日公表)

▶▶▶ 安全衛生表彰

鶴飼工場において、永年にわたる安全衛生活動に努めたことが評価され、広島県労働基準協会府中支部 進歩賞を受賞いたしました。

受賞日	受賞対象	受賞内容
2018年4月20日	鶴飼工場	広島県労働基準協会府中支部 進歩賞

▶▶▶ 安全衛生・環境に関する資格の保有者数

当社では、安全衛生・環境に関わる必要な資格の積極的な取得に努めています。

法的に定められた選任者は充足していますが、新入社員をはじめとした若手従業員を中心に資格取得の推進を図り、スキルアップにつなげています。

資格名称	保有者数*(名)
	2018年度
公害防止管理者	19
エネルギー管理士	10
衛生管理者	27
特別管理産業廃棄物管理責任者	9
ボイラー技士・整備士・溶接士	51
危険物取扱者	187
消防設備士	27
高圧ガス製造保安責任者	68

※延べ人数



広島県労働基準協会府中支部 進歩賞を受賞して

2018年4月、安全衛生活動が活発に行われていることが認められ、鶴飼工場として広島県労働基準協会府中支部より進歩賞を受賞しました。

我々の工場では、定期的なパトロールにより問題・課題を抽出し、期日を決めて対処することで、事故・災害の未然防止に取り組んでいます。

また、安全衛生委員会では、労使間で忌憚のない意見交換を行っており、双方が同じ目標に向かって進んでいることを実感しています。このような地道な活動が評価されたことは非常に名誉なことであり、今後も引き続き快適な職場環境の形成に努めてまいります。



鶴飼工場 工場長 藤田 耕三



お客様への取り組み

品質管理

品質方針

お客様の満足と信頼をいただくために、常にニーズに合った品質の製品を経済的、安定的に提供します。

取締役生産本部本部長 栗本 倫行

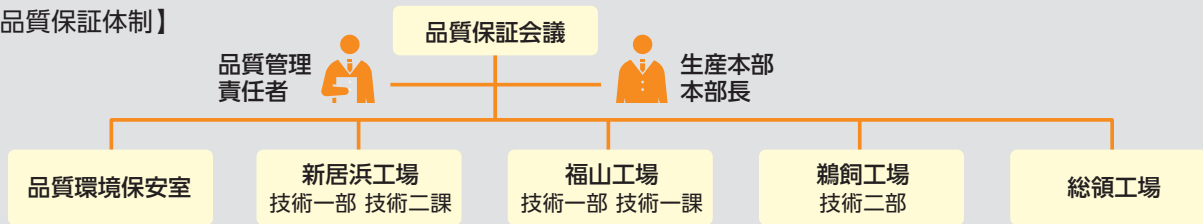
ISO 9001
取得状況

適用工場	新居浜工場、福山工場、 鶴飼工場、総領工場
登録番号	JCQA-0749
認証機関	日本化学キューエイ株式会社

品質マネジメントシステムISO 9001を運用し、顧客満足向上、品質向上に努めています。ISO 9001は新居浜工場、福山工場、鶴飼工場、総領工場を統合した範囲で取得しており、2018年3月にISO 9001:2015規格への移行審査を受けました。

品質保証活動を全社で推進するため、各工場で品質保証会議を定期開催し、お客様からのご要望やご指摘を共有するとともに、工場の問題点などを明確にして解決策を協議しています。今後も製品品質の維持管理や改善に努めます。

【品質保証体制】



株主・投資家の皆様への取り組み

株主総会

当社は、より多くの株主様にご出席いただけるよう、総会日を集中日より早期に開催するとともに、株主総会招集通知の早期発送ならびに早期開示を行っています。2018年6月20日に開催した第60期定時株主総会には、約60名の株主の皆様にご参加いただきました。総会後には近況説明会を開催し、当社の経営状況や業績予測について説明を行うとともに、株主の皆様からのご質問にお答えさせていただくなど、株主の皆様との対話の場を設けました。



IR活動

株主・投資家の皆様に向けて、業績、経営戦略、その他当社をご理解いただくために有用な情報を、適時適切に開示しています。ホームページ内の「IR情報」における迅速な情報発信に加え、日々のお問い合わせへの対応等を通じて、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの充実に努めます。



株主還元

当社では中長期的な視点からの株主の皆様への利益還元を重要な政策と位置付け、継続的かつ安定的な配当を実施しています。

従業員への取り組み

》》 仕事と家庭の両立支援

育児休業制度、介護休業制度、育児短時間勤務制度といった両立支援制度があり、より働きやすい環境づくりに取り組んでいます。制度の活用も推進されており、実際に広く利用されています。



制度	概要	2016年度	2017年度	2018年度
育児休業制度	子が1歳に達するまで (一定の条件のもと、最長2歳まで延長可能)	3名	2名	4名
育児短時間勤務制度	子が小学校3年生終了まで勤務時間を 9:00~16:00(または16:30)に短縮可能	11名	15名	15名

》》 健康管理

毎年10月、「全国労働衛生週間」中の行事として、産業医による衛生講話を開催し、従業員の健康管理を積極的に推進しています。

2018年は、鶴飼・総領工場、本社に勤務する従業員を対象として、「職場におけるメタボ対策」をテーマに、肥満の健康リスクに関する講話を行い、多数の従業員が聴講しました。また、2014年より全従業員を対象にストレスチェックの実施を継続しています。

委託業者による集団分析の結果はそれぞれの職場へ報告し、組織の現状把握と改善ポイントの抽出につなげていくよう努めています。外部相談窓口によるメンタルヘルスケアサービスや産業保健スタッフによる健康面談も継続しており、相談しやすい環境を整え、より細やかな社員の健康管理を目指しています。



地域社会への取り組み

》》 防災訓練への参加

福山海上保安署主催の2018年度福山防災訓練が当社福山工場で11月に開催されました。訓練は、行政、民間企業等総勢100名により行われました。行政や企業が連携・協力して総合的な防災訓練を行うことで、海上防災体制の強化および防災意識の高揚を図りました。



》》 地域の教育支援活動

2018年10月に府中市内の小学校を訪問し、社員が講師として5年生46名を対象に出前授業を行いました。当社の事業内容や製品について説明を行い、「オレンジオイル」や「ホットメルト」を使った実験を体験してもらいました。次世代を担う子どもたちに地元企業の「ものづくり」や「化学」に関心を持ってもらうことをねらいとして、地域の教育支援活動に参加しています。



》》 スポーツ支援

当社は、女子バレーボール市民クラブチーム「岡山シーガールズ」の応援を通じて、スポーツ振興に取り組んでいます。2018年は9月に同チームによる府中バレーボール教室を共催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。

》》 職場体験学習

地域の学校の生徒を対象に、職場体験学習の受入れを行っています。2018年は鶴飼工場に2名、総領工場に1名の中学生が職場体験学習に訪れました。



<http://www.yschem.co.jp/>

ヤスハラケミカル株式会社

〒726-8632 広島県府中市高木町1080番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。